

禁煙科学 Vol. 15(10), 2021. 10



今月号の目次

【原著】

新型タバコの主観的有害性認識度の評価（松山大学在校生への喫煙防止・禁煙教育の結果）

難波 弘行 1

【連載】

禁煙科学 最近のエビデンス（2021年10月 KKE301）

KKE301「バレニクリンを処方された妊婦はニコチンパッチより

3倍禁煙に成功した：豪州」

舘野 博喜 9

【連載】

週刊タバコの正体（2021年10月 No. 679-682）

奥田 恭久 13

【報告】

全国禁煙アドバイザー育成講習会 開催報告 14

第279回 倉敷・web開催／アーカイブ放映（2021年10月23日）

【原著】

新型タバコの主観的有害性認識度の評価 (松山大学在校生への喫煙防止・禁煙教育の結果)

黒田 普¹⁾ 河添 仁²⁾ 山内 真央子¹⁾ 井上 捷人³⁾ 高橋 芹奈⁴⁾ 武智 研志¹⁾ 高取 真吾¹⁾ 柴田 和彦¹⁾ 難波 弘行¹⁾

要 旨

目的：紙巻タバコや新型タバコ（加熱式タバコ、電子タバコ）に対する大学生の主観的有害性認識度（以下、認識度）が、喫煙防止・禁煙教育を行うことでどの様に変化するか講義前後で評価した。

方法：共通教育科目において、癌疾患、慢性閉塞性肺疾患等の喫煙が関係する病態や禁煙補助剤の説明、さらに紙巻きタバコや新型タバコの有害性に関する90分の講義を3回行った。講義終了後、学生にアンケートを配布し、年齢、性別、3種類のタバコに関する認識度の変化（1：少ない～5：多いの5段階）の記載を求めた。

結果と考察：大学生への喫煙防止・禁煙教育において、講義後に喫煙に対する認識度は上昇しており有意差が認められた。3種類のタバコの中で認識度が最も高いのは、紙巻タバコであり、加熱式タバコ、電子タバコの順であった。紙巻タバコの有害性に関しては、小学校より継続的に教育されているが、新型タバコは近年販売されたばかりであり、毒性が低い等の宣伝が原因と考えられる。また、全ての種類のタバコの有害性に関して、女性の方が男性よりも認識度が高い傾向にあった。この理由として、女性は妊娠・出産等の健康面を考慮しているためと考えられる。一方、講義前の加熱式タバコや電子タバコの認識度が紙巻タバコよりも低い結果であった。特にニコチンやタールが入っていない電子タバコに関しては、講義前の認識度が最も低いため、電子タバコなら喫煙しても良いと考える多くの学生がいると懸念される。

結論：大学生に対する紙巻きタバコや新型タバコに関する有害性認識度の調査から、大学生への新型タバコの有害性に関して教育する必要がある。

キーワード：大学生、教育、電子タバコ、加熱式タバコ、喫煙率

緒 言

喫煙は、がん、心血管疾患、糖尿病、慢性閉塞性肺疾患等の非感染性疾患の危険因子である¹⁾。また、受動喫煙に関しても様々な病気を引き起こす可能性があるため、喫煙関係による健康被害を防止するには喫煙行動を抑制し、禁煙することが重要である。

2019年の国民健康栄養調査によると、現在、全人口の

16.7%が喫煙しており、性別で検討すると男性は27.1%、女性は7.6%と報告されている。また、現在習慣的に喫煙している者のうちタバコをやめたいと思う者の割合は26.1%であり、性別で見ると男性は24.6%、女性は30.9%であった²⁾。喫煙している学生の大多数は青年期に喫煙を開始していた。対照的に、19歳までに喫煙していなかった者は、後に喫煙する割合がごく僅かであった^{3,4)}。若年者は成人よりも早く依存症に陥りやすく、早期に喫煙を開始した者ほど依存度が深刻で禁煙も困難にな

1) 松山大学薬学部医療薬学臨床部門

2) 慶應義塾大学薬学部医療薬学・社会連携センター医療薬学部門

3) (有)くすりのこのはな

4) (株)ハッピーファーマシー ハッピー薬局室町店

責任者連絡先：難波弘行

(〒790-0826) 愛媛県松山市文京町4番地2

松山大学薬学部医療薬学臨床部門

E-mail: hnamba@g.matsuyama-u.ac.jp

ると報告されており、未成年者の喫煙の低年齢化も問題になっている⁵⁻⁷⁾。

近年、新しい喫煙手段として新型タバコ（加熱式タバコ、電子タバコ）が市販されている。日本では、加熱式タバコは従来の紙巻タバコより危険視されていないため、加熱式タバコを含めた新型タバコの使用者が急増し、2019年には成人の10%以上が新型タバコを使用すると推測されている⁸⁾。また、喫煙のゲートウェイとされる電子タバコの普及を考慮すると⁹⁾、大学における喫煙防止対策の一環としての新型タバコを含めた喫煙防止・禁煙教育を行うことは、喫煙者を減らすためにも極めて重要である。

松山大学では2014年度以降、新入生オリエンテーションにて約30分程度の喫煙防止・禁煙教育を行っている。2016年に行った新入生に対する喫煙防止・禁煙支援教育時の560名のアンケート調査の結果、講義前に喫煙する可能性があると回答した60名の中で、講義後においても22名が喫煙する可能性があると回答した¹⁰⁾。この結果から、2019年度より共通教育科目にて喫煙防止・禁煙教育をさらに充実させるために90分3回の講義を行っている。今回、喫煙防止・禁煙教育の講義前後において、喫煙（紙巻タバコ、加熱式タバコ、電子タバコ）による主観的な有害性の認識度（以下、認識度）の変化をアンケートにより調査・検討したので報告する。

方 法

(1) 講義内容

喫煙による身体、食事、生活への影響、喫煙と非感染性疾患との関係、慢性閉塞性肺疾患の主な原因と治療、禁煙補助剤について、全国調査による喫煙率の推移、ニコチン依存症、タバコに含まれている物質、副流煙と三次喫煙、紙巻タバコと新型タバコ（加熱式タバコ、電子タバコ）の構造と排出される化学物質等である。

(2) 調査時期・対象学生

喫煙防止・禁煙教育を目的とした90分3回（2019年10月17日、24日、31日）の講義を行った。また、講義終了日である2020年1月9日にアンケート調査を行った。

(3) アンケート調査の内容

アンケートは無記名にて行い、年齢、性別、さらに講義前後での紙巻タバコ、加熱式タバコ、電子タバコの認

禁煙・喫煙に関する講習アンケート

学生番号を記入しないで、無記名でお願いします。統計学的に処理しますので、個人情報
は守られます。

今後の授業の参考にしますので、アンケートに協力してください。

【第1問】年齢 1 18才 2 19才 3 20才 4 21才 5 22才以上
【第2問】性別 1 男性 2 女性
【第3問】今までにタバコの経験(以下、喫煙)がありますか。
1 喫煙した事はない 2 喫煙した事がある(現在、喫煙なし) 3 現在、喫煙している

【第4、5問】紙巻きタバコの有害性が「少ない」または「多い」に関して、講義の前後でどの様に感じ方が変わりましたか？

【第4問】講義前の知識

1 2 3 4 5
少ない 多い

【第5問】講義後の知識

1 2 3 4 5
少ない 多い

【第6、7問】加熱式タバコの有害性が「少ない」または「多い」に関して、講義の前後でどの様に感じ方が変わりましたか？

【第6問】講義前の知識

1 2 3 4 5
少ない 多い

【第7問】講義後の知識

1 2 3 4 5
少ない 多い

【第8、9問】電子タバコの有害性が「少ない」または「多い」に関して、講義の前後でどの様に感じ方が変わりましたか？

【第8問】講義前の知識

1 2 3 4 5
少ない 多い

【第9問】講義後の知識

1 2 3 4 5
少ない 多い

ありがとうございました。学習効果として学会等で報告させていただく事があります。

図1 講義終了日に行ったアンケート調査
(2020年1月9日)

識度の変化（1：少ない～5：多いの5段階）を調査項目とした(図1)。

(4) 統計解析

統計解析にはJMP®11(SAS Institute Japan)を用い、 $p < 0.05$ を有意差有りとした。講義前後における、全学生及び男性群と女性群の各認識度の変化の解析はWilcoxon signed-rank testを用いた。全学生に対する紙巻タバコ、加熱式タバコ、電子タバコの認識度の相違に関してはSteel-Dwass検定にて解析した。男性群と女性群の年齢の割合の検討についてはFisher's exact検定、さらに、この2群間に関する認識度の相違の検討はWilcoxon rank sum testを用いた。なお、解析結果の値については、平均値±標準偏差で示した。

(5) 倫理的配慮

アンケートに回答した学生に対しては、提出は任意であり個人情報保護のために無記名であること、得られたデータはすべて統計数字として処理することについて十分に説明し、個人情報の保護に配慮した。なお、今回の調査・研究は、松山大学の倫理審査を受けている（松大薬倫25号）。また、開示すべき利益相反はない。

結 果

(1) 基本情報

アンケートに回答した132名のうち、114名（有効率：86.4%）を有効回答人数として調査項目ごとに検討した。男性は49名、女性は65名であり、20歳未満は79名、20歳以上は35名であった。20歳未満で喫煙歴のある学生や喫煙している学生はいなかった。一方、20歳以上で喫煙経験者は4名、現在喫煙している学生は1名であった（表 1 本論文末に掲載）。

(2) 喫煙防止・禁煙教育による紙巻タバコの認識度の変化

有効回答人数112名（2名未回答）の紙巻タバコの認識度は、講義前（ 3.46 ± 1.24 ）から講義後（ 4.63 ± 0.63 ）と上昇しており、Wilcoxon signed-rank testの統計解析の結果、有意差が認められた（図 2）。

(3) 喫煙防止・禁煙教育による加熱式タバコの認識度の変化

有効回答人数111名（3名未回答）の加熱式タバコの認識度も同様に、講義前（ 2.86 ± 1.34 ）から講義後（ 4.22 ± 0.92 ）と上昇しており有意差が認められた（図 3）。

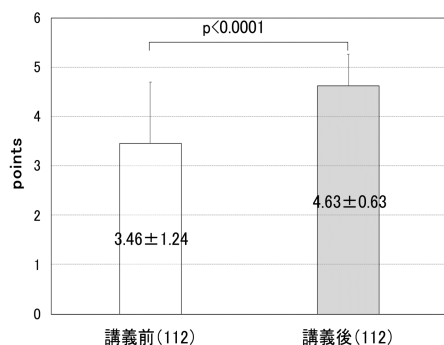


図 2 喫煙防止・禁煙教育による紙巻タバコの認識度の変化 (Wilcoxon signed-rank test)

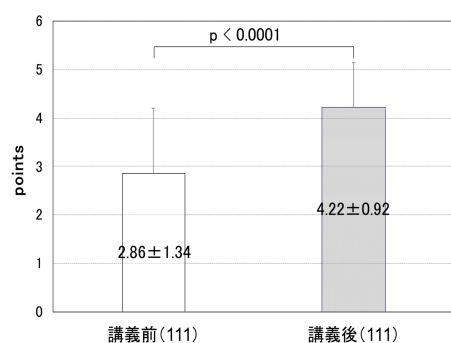


図 3 喫煙防止・禁煙教育による加熱式タバコの認識度の変化 (Wilcoxon signed-rank test)

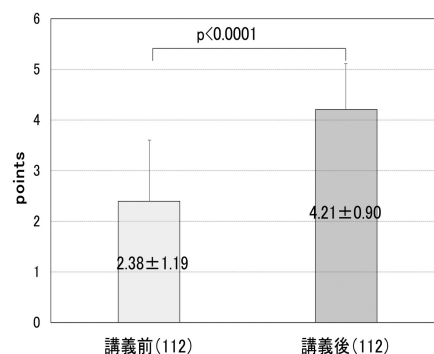


図 4 喫煙防止・禁煙教育による電子タバコの認識度の変化 (Wilcoxon signed-rank test)

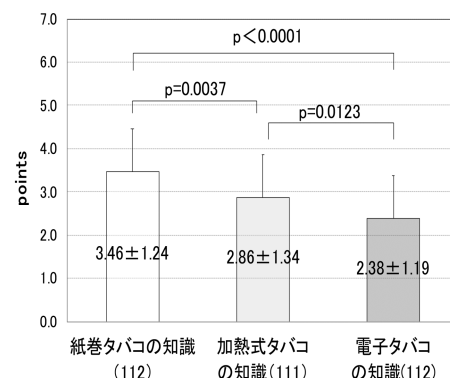


図 5 講義前における紙巻タバコ、加熱式タバコ、電子タバコの認識度の比較 (Steel-Dwass test)

(4) 喫煙防止・禁煙教育による電子タバコの認識度の変化

有効回答人数112名（2名未回答）の電子タバコの認識度も同様に、講義前（ 2.38 ± 1.19 ）から講義後（ 4.21 ± 0.90 ）と上昇しており有意差が認められた（図 4）。

(5) 講義前における紙巻タバコ、加熱式タバコ、電子タバコの認識度の比較

講義前において、紙巻タバコによる認識度（ 3.46 ± 1.24 ）が最も高かった。次に、加熱式タバコ（ 2.86 ± 1.34 ）、電子タバコ（ 2.38 ± 1.19 ）と続いた。さらに、紙巻タバコ、加熱式タバコ、電子タバコの3種類の各認識度の間には、Steel-Dwass検定において有意差が認められた（図 5）。

(6) 講義後における紙巻タバコ、加熱式タバコ、電子タバコの認識度の比較

講義後においても、紙巻タバコによる認識度（ 4.63 ± 0.63 ）が最も高く、加熱式タバコ（ 4.22 ± 0.92 ）、電子タバコ（ 4.21 ± 0.90 ）と続いた。また、Steel-Dwass検定において紙巻タバコと加熱式タバコ、紙巻タバコと電子タバコの間では有意差が認められたが、加熱式タバコと電子タバコの間には有意差が認められなかった（図 6）。

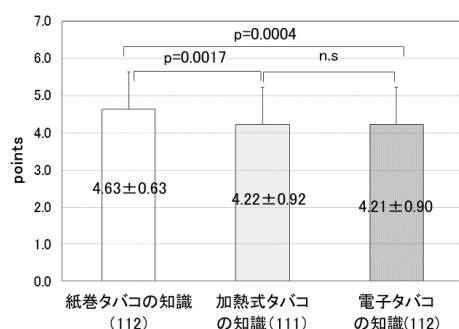


図6 講義後における紙巻タバコ、加熱式タバコ、電子タバコの認識度の比較 (Steel-Dwass test)

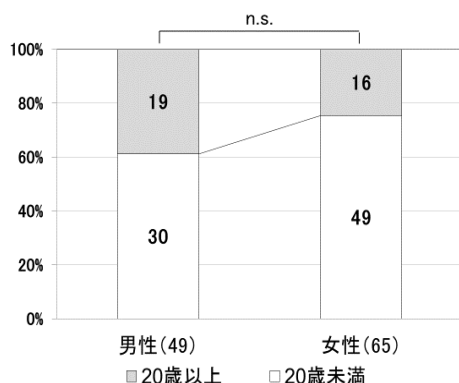


図7 男性群と女性群における、20歳前後の割合の検討 (Fisher's exact test)

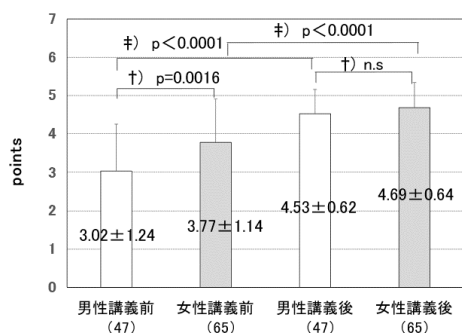


図8 性別による教育前後の紙巻タバコの認識度
†) Wilcoxon rank sum test
‡) Wilcoxon signed-rank test

(7) 男性群と女性群における、20歳未満の割合

男性群と女性群の2群間において、20歳以上と20歳未満の割合にFisher's exact検定にて解析した結果、有意差は認められなかった(図7)。

(8) 性別による教育前後の紙巻タバコの認識度の変化と比較

紙巻タバコに関しては、男性群と女性群とも、講義前より講義後で認識度が上昇しており、Wilcoxon signed-rank testにて有意差が認められた。男性群と女性群の認識度の相違に関しては、講義前ではWilcoxon rank sum testにおいて女性群の認識度が男性群よりも高く有意差

が認められた。しかしながら、講義後においては両群間の認識度の相違に有意差は認められなかったが、女性群の認識度が男性群よりも高い傾向であった(図8)。

(9) 性別による教育前後の加熱式タバコの認識度の変化と比較

加熱式タバコに関しては、男性群と女性群とも、講義前より講義後で認識度が上昇しており有意差が認められた。男性群と女性群の認識度の相違に関しては、講義前ではWilcoxon rank sum testにおいて女性群の認識度が男性群よりも高く有意差が認められた。講義後においては女性群の認識度の方が男性群より高い傾向ではあったが有意差は認められなかった(図9)。

(10) 性別による教育前後の電子タバコの認識度の変化と比較

電子タバコに関しては、男性群と女性群とも、講義前より講義後で認識度が上昇しており有意差が認められた。男性群と女性群の認識度の相違に関しては、講義前と講義後において女性群の認識度の方が男性群より高い傾向ではあったが有意差は認められなかった(図10)。

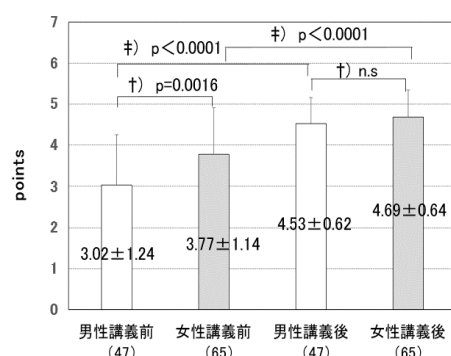


図9 性別による教育前後の加熱式タバコの認識度の変化
†) Wilcoxon rank sum test
‡) Wilcoxon signed-rank test

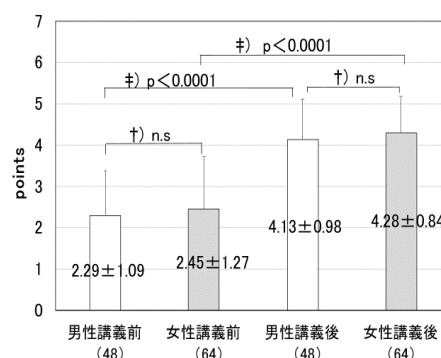


図10 性別による教育前後の電子タバコの認識度の変化
†) Wilcoxon rank sum test
‡) Wilcoxon signed-rank test

考 察

松山大学における喫煙防止・禁煙教育の講義前後の認識度は、対象とした全学生に対して紙巻タバコ、加熱式タバコ、電子タバコそれぞれで上昇しており有意差が認められたことから、講義を行うことで一定の教育効果が確認された。

紙巻タバコ、加熱式タバコ、電子タバコの講義前の認識度は、3種類のタバコの各組合せ全てにおいて有意差が認められた。一方、講義後では紙巻タバコと加熱式タバコ、紙巻タバコと電子タバコの間で有意差が認められたが、加熱式タバコと電子タバコの間には有意差は認められなかった。3種類のタバコの認識度が講義前後共に最も高いのは、紙巻タバコであり、加熱式タバコ、電子タバコの順であった。また、電子タバコの認識度については、紙巻きタバコ、加熱式タバコよりも低いことが分かった。

男性群と女性群において、法律で喫煙が認められる20歳以上の学生の割合について検討した結果、有意差が認められなかったことから性別による検討を行っても問題は無いことが確認できた。性別による紙巻タバコの認識度に関しては、講義前では女性の方の認識度が男性より高く有意差が認められたが、講義後では両群共に5点近くになり有意差が認められなかった。また、女性群の認識度が、男性群より講義前後共に高い傾向となった。女性は妊娠・出産等の健康面を考慮しているためと思われるが、加熱式タバコ、電子タバコに関しても同様の傾向が認められ、全ての種類のタバコの有害性に関して、女性の方が男性より高い認識度を示していた。

現在、禁煙方法として科学的根拠のある禁煙治療薬の代わりに、科学的根拠の無い加熱式タバコを使用する人が急増していることが懸念されている⁸⁾。紙巻タバコの有害性に関しては、平成7年(1995年)に文科省から「学校等における受動喫煙防止対策及び喫煙防止教育の推進について」の通知がなされ¹¹⁾、小学校より継続的に紙巻きタバコの有害性について教育されている。さらに、紙巻きタバコの広告や販売促進活動に関しては禁止されるべきとされているが、新型タバコである加熱式タバコや電子タバコに関しては、テレビCM、コンビニでのパンフレット配布等、タバコ会社による宣伝活動が活発化している。この様な背景から、喫煙防止・禁煙対策は以前よ

りさらに難しくなっている⁸⁾。

改正健康増進法の一部が施行され、2019年7月1日から「学校・病院・児童福祉施設等・行政機関」では敷地内が原則禁煙となり、2020年4月1日からは全面施行となった。また、多数の者が利用する施設では、原則屋内禁煙である。しかしながら、経過措置ではあるが喫煙専用室・加熱式タバコ専用喫煙室としての基準を満たし、掲示を義務付けることで、その室内でのみ喫煙することが出来るとされている¹²⁾。さらに、屋内全面禁煙ルールにおいて、紙巻タバコは禁止だが、加熱式タバコは例外的に禁止されないという事態も起きている⁸⁾。

今回のアンケート調査では認識度のみを対象としたが、喫煙による慢性閉塞性肺疾患や発癌などの人体への有害性に加え、周りの家族や子供への副流煙や三次喫煙に関して強く意識させることで、大学生が20歳になった時の喫煙動機を抑制できると考えている。そのため、喫煙防止・禁煙教育に関する認識度を調査した本研究は、極めて重要である。本研究において講義前の加熱式タバコや電子タバコの認識度が低いことから、紙巻タバコ以外なら喫煙しても良いと考える一般学生がいることが懸念される。特に、本邦で販売されている電子タバコに関しては、ニコチンが含まれていないために法的な規制がなく未成年でも購入・喫煙が可能である。一方、ニコチンが含まれている電子タバコは、本邦では販売が許可されていないが、個人輸入が可能である。米国では電子タバコで大麻を吸入し健康被害が出ていることが報告されており、大きな社会問題となっている¹³⁾。さらに、電子タバコが喫煙のゲートウェイであり有害性もあることを考慮すると⁹⁾、今後、喫煙防止・禁煙教育の内容を充実させると共に、認識度のみならず学生の加熱式タバコや電子タバコの喫煙に対する客観的な知識を評価する必要があると考えている。

結 語

松山大学での喫煙防止・禁煙教育の講義前後において、喫煙に対する認識度は上昇しており有意差が認められたため、講義を行うことで一定の効果が確認された。3種類のタバコの認識度の中で、講義前後共に最も高いのは、紙巻タバコであり、加熱式タバコ、電子タバコの順であった。この理由として、紙巻タバコの有害性に関し

ては、小学校より継続的に教育されているが、新型タバコ（加熱式タバコ、電子タバコ）は近年販売されたばかりであり、毒性が低い等の宣伝が原因と考えられる。また、女性は妊娠・出産等の健康面を考慮しているためと考えられるが、全ての種類のタバコの有害性に関して、女性の方が男性よりも高い認識度を有していた。一方、講義前の加熱式タバコや電子タバコの認識度が紙巻タバコよりも低いことから、紙巻タバコ以外なら喫煙しても良いと考える多くの学生がいるのではないかと懸念される。特に、ニコチンやタールが含まれない電子タバコに関しても、タバコを始めるゲートウェイになることを周知させる必要がある。今後、喫煙防止・禁煙教育の内容をさらに充実させると共に、喫煙に対する有害性の認識度のみならず、喫煙に対する客観的な知識を評価する必要がある。

文 献

- 1) 厚生労働省ホームページ：健康日本21，4たばこ。
https://www.mhlw.go.jp/www1/topics/kenko21_11/pdf/b4.pdf（参照日2021年8月6日）
- 2) 厚生労働省ホームページ：令和元年国民健康・栄養調査結果の概要。
<https://www.mhlw.go.jp/content/10900000/000687163.pdf>
（参照日2021年8月6日）
- 3) 原田隆之，佐川智子，高橋稔：大学生の喫煙支持要因の検討．禁煙会誌，9(2)，2014：22-28.
- 4) Curry S. J, Mermelstein R. J, Sporer A. K: Therapy for specific problems: Youth tobacco cessation, Annu. Rev. Psychol, 60, 2009: 229-255.
- 5) 藤原久義，山本蒨子，安陪隆明，ほか：若年者の禁煙治療指針．禁煙会誌，11(6)，2016：145-151.
- 6) 尾崎米厚：青少年の喫煙行動，関連要因及び対策，保健医療科学，54(4)，2005：284-289.
- 7) 喫煙と健康—喫煙と健康影響に関する検討会報告書。
<https://www.mhlw.go.jp/file/05-Shingikai-10901000-Kenkoukyoku-Soumuka/0000172687.pdf>
（参照日2021年8月6日）
- 8) 田淵貴大：新型タバコの到来．禁煙会誌，14(4)，2019：77-78.
- 9) 松崎道幸(訳)：電子タバコに関する世界保健機関報告書。
<http://www.jstc.or.jp/uploads/uploads/files/%20DTWHO.pdf>
（参照日2021年8月6日）
- 10) Shinji Akiyama, Hiroyuki Namba, Jun Maki, et al.: Evaluation of first-year smoking prevention and cessation education at the time of university admission: A study on changes in knowledge regarding subjective harmful effects of smoking and attitude toward smoking. Smoking Control Science 11(2), 2017: 1-6.
- 11) 文部科学省：学校等における受動喫煙防止対策及び喫煙防止教育の推進について。
https://www.mext.go.jp/a_menu/kenko/hoken/1414426.htm
（参照日2021年8月6日）
- 12) 厚生労働省ホームページ：健康増進法の一部を改正する法律（平成30年法律第78号）概要。
<https://www.mhlw.go.jp/content/10900000/000469083.pdf>
（参照日2021年8月6日）
- 13) Hongying Dai: Self-reported Marijuana Use in Electronic Cigarettes Among US Youth, 2017 to 2018. JAMA 323(5), 2019: 473-474.

表1 アンケートの調査結果(114名)

学生 番号	年齢	性別	学部	喫煙 経験	紙巻タバコの 有害性		加熱式タバコの 有害性		電子タバコの 有害性	
					講 義 前	講 義 後	講 義 前	講 義 後	講 義 前	講 義 後
学生1	20歳未満	F	薬学部	経験なし	4	5	4	5	4	5
学生2	20歳未満	F	文科系	経験なし	3	4	3	5	5	5
学生3	20歳未満	F	文科系	経験なし	4	5	5	5	2	4
学生4	20歳未満	F	文科系	経験なし	5	5	3	4	2	4
学生5	20歳未満	F	薬学部	経験なし	2	4	4	5	3	5
学生6	20歳未満	F	薬学部	経験なし	4	5	3	5	4	5
学生7	20歳未満	F	薬学部	経験なし	5	5	2	3	2	4
学生8	20歳未満	F	薬学部	経験なし	3	4	1	5	1	5
学生9	20歳未満	F	文科系	経験なし	3	4	4	5	3	4
学生10	20歳未満	F	薬学部	経験なし	5	5	5	5	5	5
学生11	20歳未満	F	薬学部	経験なし	3	5	5	5	5	5
学生12	20歳未満	F	薬学部	経験なし	4	5	1	5	2	5
学生13	20歳未満	F	文科系	経験なし	5	5	1	5	1	5
学生14	20歳未満	F	薬学部	経験なし	3	5	3	5	3	5
学生15	20歳未満	F	薬学部	経験なし	1	4	3	3	1	5
学生16	20歳未満	F	薬学部	経験なし	3	5	2	5	3	5
学生17	20歳未満	F	文科系	経験なし	2	5	2	4	1	4
学生18	20歳未満	F	文科系	経験なし	2	4	1	3	1	4
学生19	20歳未満	F	薬学部	経験なし	5	5	4	4	2	4
学生20	20歳未満	F	文科系	経験なし	3	4	3	4	2	4
学生21	20歳未満	F	文科系	経験なし	3	5	1	2	3	4
学生22	20歳未満	F	文科系	経験なし	2	4	3	5	2	4
学生23	20歳未満	F	文科系	経験なし	4	5	1	3	1	3
学生24	20歳未満	F	文科系	経験なし	5	5	3	3	*	*
学生25	20歳未満	F	薬学部	経験なし	4	5	4	5	3	4
学生26	20歳未満	F	薬学部	経験なし	5	5	5	5	5	5
学生27	20歳未満	F	薬学部	経験なし	3	4	3	4	3	4
学生28	20歳未満	F	文科系	経験なし	3	4	3	4	2	4
学生29	20歳未満	F	文科系	経験なし	5	5	3	3	2	2
学生30	20歳未満	F	薬学部	経験なし	5	5	3	3	3	4
学生31	20歳未満	F	文科系	経験なし	3	5	2	4	2	4
学生32	20歳未満	F	文科系	経験なし	4	5	3	5	2	5
学生33	20歳未満	F	文科系	経験なし	4	5	4	5	2	5
学生34	20歳未満	F	薬学部	経験なし	5	5	1	3	1	3
学生35	20歳未満	F	薬学部	経験なし	4	5	2	2	2	5
学生36	20歳未満	F	薬学部	経験なし	3	5	1	3	2	4
学生37	20歳未満	F	薬学部	経験なし	5	5	2	3	1	3
学生38	20歳未満	F	文科系	経験なし	3	4	3	4	2	4
学生39	20歳未満	F	文科系	経験なし	5	5	3	5	2	5
学生40	20歳未満	F	薬学部	経験なし	2	5	3	5	3	5
学生41	20歳未満	F	文科系	経験なし	5	5	3	5	2	4
学生42	20歳未満	F	薬学部	経験なし	5	5	5	5	5	5
学生43	20歳未満	F	薬学部	経験なし	5	5	5	5	5	5
学生44	20歳未満	F	文科系	経験なし	3	4	4	5	2	4
学生45	20歳未満	F	薬学部	経験なし	3	5	5	5	1	3
学生46	20歳未満	F	文科系	経験なし	4	5	5	5	3	5
学生47	20歳未満	F	文科系	経験なし	5	5	5	5	3	4
学生48	20歳未満	F	文科系	経験なし	4	5	5	5	1	1
学生49	20歳未満	F	薬学部	経験なし	4	5	1	5	5	5
学生50	20歳未満	M	薬学部	経験なし	5	5	*	*	1	5
学生51	20歳未満	M	薬学部	経験なし	5	5	5	5	*	*
学生52	20歳未満	M	文科系	経験なし	3	3	3	3	3	3
学生53	20歳未満	M	文科系	経験なし	4	5	3	4	2	4
学生54	20歳未満	M	文科系	経験なし	4	5	3	4	2	4
学生55	20歳未満	M	文科系	経験なし	3	5	3	5	3	5
学生56	20歳未満	M	薬学部	経験なし	3	5	1	3	3	5
学生57	20歳未満	M	薬学部	経験なし	3	4	4	5	2	5
学生58	20歳未満	M	文科系	経験なし	3	5	2	5	1	3
学生59	20歳未満	M	薬学部	経験なし	2	4	2	4	2	4
学生60	20歳未満	M	薬学部	経験なし	4	5	2	4	2	4
学生61	20歳未満	M	薬学部	経験なし	2	4	2	3	1	3
学生62	20歳未満	M	文科系	経験なし	2	5	3	5	3	5
学生63	20歳未満	M	薬学部	経験なし	3	5	1	4	2	5
学生64	20歳未満	M	薬学部	経験なし	3	4	3	4	3	4
学生65	20歳未満	M	文科系	経験なし	2	4	2	5	1	1
学生66	20歳未満	M	文科系	経験なし	4	5	4	5	3	5
学生67	20歳未満	M	薬学部	経験なし	1	5	1	5	1	5
学生68	20歳未満	M	薬学部	経験なし	2	5	1	4	2	4
学生69	20歳未満	M	薬学部	経験なし	5	5	5	5	1	5
学生70	20歳未満	M	薬学部	経験なし	4	5	2	4	4	5
学生71	20歳未満	M	文科系	経験なし	3	5	3	4	3	4
学生72	20歳未満	M	文科系	経験なし	2	4	2	4	2	4
学生73	20歳未満	M	文科系	経験なし	2	3	1	2	1	2
学生74	20歳未満	M	文科系	経験なし	*	*	*	*	2	5
学生75	20歳未満	M	薬学部	経験なし	1	5	1	5	1	5
学生76	20歳未満	M	薬学部	経験なし	2	5	2	2	3	3
学生77	20歳未満	M	薬学部	経験なし	5	5	3	5	3	5
学生78	20歳未満	M	文科系	経験なし	5	5	3	3	2	4
学生79	20歳未満	M	薬学部	経験なし	3	4	3	4	3	4
学生80	20歳以上	F	文科系	経験なし	4	5	5	5	2	5
学生81	20歳以上	F	薬学部	経験なし	5	5	4	5	3	5
学生82	20歳以上	F	薬学部	経験なし	4	5	3	5	2	4
学生83	20歳以上	F	薬学部	経験なし	5	5	1	3	1	3
学生84	20歳以上	F	文科系	経験なし	5	5	5	5	2	4
学生85	20歳以上	F	文科系	経験なし	2	4	1	4	1	4
学生86	20歳以上	F	文科系	経験なし	1	1	*	*	3	3
学生87	20歳以上	F	文科系	経験なし	2	5	1	4	1	4
学生88	20歳以上	F	文科系	経験なし	5	5	5	5	2	5
学生89	20歳以上	F	文科系	経験なし	3	4	5	4	1	4
学生90	20歳以上	F	文科系	経験なし	3	4	1	3	1	3
学生91	20歳以上	F	文科系	経験なし	5	5	3	5	1	5
学生92	20歳以上	F	薬学部	経験なし	5	5	4	5	4	5
学生93	20歳以上	F	文科系	経験なし	4	5	2	4	3	5
学生94	20歳以上	F	薬学部	経験なし	3	4	4	5	3	5
学生95	20歳以上	F	薬学部	経験なし	5	5	5	5	5	5
学生96	20歳以上	M	文科系	経験なし	5	5	3	5	5	5
学生97	20歳以上	M	文科系	経験なし	2	4	2	4	2	4
学生98	20歳以上	M	文科系	過去に経験	2	4	1	2	1	3
学生99	20歳以上	M	文科系	経験なし	1	5	1	5	1	5
学生100	20歳以上	M	文科系	経験なし	2	4	3	5	3	5
学生101	20歳以上	M	文科系	過去に経験	5	5	3	4	3	4
学生102	20歳以上	M	文科系	経験なし	4	5	3	4	3	4
学生103	20歳以上	M	文科系	経験なし	4	4	3	4	3	4
学生104	20歳以上	M	文科系	経験なし	1	4	1	3	1	5
学生105	20歳以上	M	文科系	経験なし	*	*	3	3	2	2
学生106	20歳以上	M	文科系	経験なし	3	4	3	3	3	3
学生107	20歳以上	M	文科系	経験なし	4	5	3	5	1	5
学生108	20歳以上	M	文科系	過去に経験	2	4	1	3	2	4
学生109	20歳以上	M	文科系	経験なし	3	5	5	5	5	5
学生110	20歳以上	M	文科系	経験なし	2	4	1	4	1	4
学生111	20歳以上	M	文科系	現在使用中	2	3	3	3	2	3
学生112	20歳以上	M	文科系	経験なし	2	4	3	3	3	3
学生113	20歳以上	M	文科系	過去に経験	3	5	2	5	2	5
学生114	20歳以上	M	文科系	経験なし	5	5	5	5	5	5

Evaluation of subjective harmful effects of new types of tobacco: Results of smoking prevention and cessation education for the students of Matsuyama University

Abstract

Purpose: We provided smoking prevention and cessation education to university students and evaluated how their subjective harm awareness to cigarettes and new types of tobacco (heat-not-burn tobacco, electronic cigarettes) changed after the lecture.

Method: In the common education course, we provided three 90-minute lectures about smoking-related diseases, such as cancer and chronic obstructive pulmonary disease, smoking cessation aids, and the harmful effects of cigarettes and new types of tobacco. After the lecture, a questionnaire was distributed to students query their age and gender and describe changes (1– 5 points) in the students' awareness of three types of tobacco.

Results and Discussion: After smoking cessation and prevention education for university students, awareness about the impact of smoking significantly increased. Of the three types of tobacco, cigarettes were the most recognized as harmful, followed by heat-not-burn tobacco and electronic cigarettes. Although the harmfulness of cigarettes has been communicated in elementary schools, new types of tobacco have emerged in recent years and are advertised as having low toxicity. Women tended to be more aware of the harmful effects of all types of tobacco than men. This may be because women tend to be more conscious about their health conditions, such as pregnancy and childbirth. Conversely, the recognition of heat-not-burn tobacco and electronic cigarettes before the lecture was lower than that of cigarettes. Many students may be willing to smoke electronic cigarettes because awareness of their harmfulness was lowest before the lecture. The students likely believed that electronic cigarettes are less harmful because they do not contain nicotine or tar.

Conclusion: It is necessary to educate university students about the harmfulness of new types of tobacco based on our survey of their subjective degree of hazard awareness of cigarettes and new types of tobacco.

禁煙科学 最近のエビデンス 2021/10

さいたま市立病院 館野博喜
Email: Hrk06tateno@aol.com

本シリーズでは、最近の禁煙科学に関する医学情報を要約して紹介しています。医学論文や学会発表等から有用と思われるものを、あくまで私的ではありますが選別し、医療専門職以外の方々にも読みやすい形で提供することを目的としています。より詳細な内容につきましては、併記の原著等をご参照ください。

目次

KKE301 「バレニクリンを処方された妊婦はニコチンパッチより3倍禁煙に成功した：豪州」

KKE301

「バレニクリンを処方された妊婦はニコチンパッチより 3倍禁煙に成功した：豪州」

Stephanie K Y Choi等、Nicotine Tob Res. 2021 Aug 29;23(10):1664-1672. PMID: 34398235

- 豪州では10%の女性が妊娠中も喫煙しているが、4人に3人は一度は禁煙を試みている。
- 豪州や国際的な禁煙ガイドラインでは、ニコチン置換療法NRTがタバコ喫煙より相対的に安全であることから、妊婦へのNRT使用を支持している。
- しかし、妊婦におけるNRTの効果や有効性は定まっていない。
- 一般人口においては、バレニクリンはNRTより有効性が高いとする報告が多いが、妊婦への有効性や安全性のデータは不足しており、バレニクリンの使用は妊婦には勧められていない。
- 我々は以前に“喫煙MUMS研究”のデータから、禁煙補助薬の妊婦への安全性について報告した(KKE277w)。
- 今回、同研究データを用いて、妊婦におけるバレニクリンとニコチンパッチの禁煙効果について比較した。
- ニューサウスウェールズ州と西オーストラリア州の2つの州で、2011年初から2012年末までに出産した単胎妊婦に付き後方視的に解析した（全妊娠件数 257,647、妊婦の総数249,173人）。
- 周産期記録データと薬剤請求データ、入院データを突合した。
- 妊娠前半期にバレニクリンかニコチンパッチ治療を開始された喫煙者を解析対象とし、両者を併用した者は解析から除外した。
- バレニクリンは禁煙開始の1週間前から、NRTは2週間前から開始することが推奨されており、その期間を含めて妊娠20週までに薬を開始した者を選んだ。
- またNRTは8週間、バレニクリンは12週間の治療期間があるため、各々8週前・12週前までに処方を受けたことのある者は除外した。
- OTCのNRT使用については調べられなかった。
- 禁煙の効果は、妊娠後半期に禁煙しているかどうかで調べた。
- 共変量としては、妊娠時年齢、出産した州、パートナーとの同居の有無、出身国、貧困地域の居住、大都市の居住、先住民かどうか、を用いた。
- バレニクリン治療妊婦とニコチンパッチ治療妊婦を、プロペンシティ・スコア・マッチングで比較した。
- 対比が1:1となるように、マッチングが最も類似する者を選択するアルゴリズムを採用した。

→バレニクリン例106人とNRT例135人から、最終的に60人ずつが解析対象となった。

→実例数と解析例数に開きができたため、実例数を用いた感度分析も行った。

→バレニクリンの最長処方期間は56日、NRTは28日であり、全例において治療期間は短めだった。

→最も多く処方されたニコチンパッチの容量は21mg/日（ニコチネルTTS30相当、51.3%）と25mg/日（46.7%）であり、これらは最長28日まで処方されていた。

→妊婦の平均年齢は28歳、平均出産回数1.4回、貧困地域居住52-55%、喫煙量が中・高量32%、投薬開始時の妊娠週数4.6-5.0週、であった。

→禁煙した妊婦の割合は、バレニクリン治療：33.3%（95%CI：21.7-46.7）、ニコチンパッチ治療：13.3%（5.9-24.6）、率差：24.2%（10.2-38.2）、相対リスク：2.8（1.4-5.7）、であった。

感度分析でも結果は揺るがず、多変量ポアソン回帰モデルによる補正相対リスクは3.4（1.8-6.4）であった。

→バレニクリンは妊婦の禁煙にNRTより効果が高い。

<選者コメント>

妊婦に対する禁煙薬物治療において、バレニクリンとニコチンパッチの効果を比較した初めての報告です。RCTによるエビデンスが得られておらず、また倫理的観点から今後得にくいと思われる課題について、登録観察研究のデータを用いて解析されました。

妊娠前半期に投薬が開始された各60人ずつを比較したところ、後半期に禁煙していた妊婦は、バレニクリン33.3%、ニコチンパッチ13.3%、でバレニクリンのほうが約3倍禁煙率が高くなっていました。25万件に上る公的な全妊娠登録データを採用し、また傾向スコアを用いて背景因子を補正しており、結果の信頼性が高まっています。

一方でやはり、無作為化された投与方法ではないこと、一国の2州での報告であること、処方歴＝実際の内服歴とは限らないこと、などの限界もあり、ひとつの参考所見ということにはなります。

本邦では、ニコチンパッチは妊婦・授乳婦には禁忌とされ、バレニクリンは有益性投与となっています。学会誌においても、大阪母子医療センターの報告（http://www.jascs.jp/kinen_kagaku/2019/2019-03/kinen-kagaku2019-03-P1.pdf）等もあり、禁煙薬物治療を希望される妊婦の方で、バレニクリン投与に同意して下さる場合には、KKE277w、KKE272o等とも合わせ勇気づけてさしあげられる報告と思います。

<高橋裕子先生からのコメント>

緻密に計画され検証された質の高い論文で、バレニクリンの早期の供給再開が待たれます。

さて、この論文から私たちは、さらに2つのことを学ぶことができると思います。

一つは、日本では「禁忌」とされている妊婦へのニコチンパッチ使用が、豪州や国際的な禁煙ガイドラインでは支持されていて、逆に日本では「使用できる」となっているバレニクリンの使用は妊婦には勧められていないことです。現在、バレニクリンは供給の見込みが立っていませんが、「禁忌」とされているニコチンパッチが、国際的な禁煙ガイドラインでは禁忌ではなく支持された禁煙方法であることを知っておくことは有用なことと考えます。

2つ目、妊娠後期に禁煙しているかどうかの成果検証で、バレニクリン33.3%、ニコチンパッチ13.3%という禁煙成功率は、妊婦禁煙の困難さを示していると言えます。吸い始めないための環境づくりと教育の重要性をあらためて教えられました。

<その他の最近の報告>

KKE301a「25歳以下の加熱式タバコ使用者は紙巻喫煙者より電話支援での禁煙率が低い：香港」

- Wei Xia等、J Subst Abuse Treat. 2021 Aug 15;108599. PMID: 34419325
- KKE301b「禁煙の障壁のひとつバラ売りタバコ (loosies) に対する都市部黒人への意識調査：米国」
- Lilianna Phan等、Health Educ Res. 2021 Aug 6;cyab014. PMID: 34357385
- KKE301c「都市部集合住宅で禁煙外来を1年開いたら47人が受診し13人が禁煙した：米国」
- Panagis Galiatsatos等、BMC Public Health. 2021 Aug 5;21(1):1514. PMID: 34353308
- KKE301d「写真入り警告表示のタバコを使用させるとタバコへの好感度が短期的に減るが喫煙行動は変えない：米国360人のRCT」
- David R Strong等、JAMA Netw Open. 2021 Aug 2;4(8):e2121387. PMID: 34347057
- KKE301e「英米豪やWHOの電子タバコに対する政策提言はCOIを有する情報に基づいている：引用文献のネットワーク解析」
- Marissa J Smith等、PLoS One. 2021 Aug 4;16(8):e0255604. PMID: 34347823
- KKE301f「非侵襲的脳刺激療法は減煙効果がある：RCTのネットワークメタ解析」
- Ping-Tao Tseng等、Addiction. 2021 Aug 4. PMID: 34347916
- KKE301g「慢性腎臓病と喫煙・禁煙に関するレビュー」
- Fernanda Oliveira Coelho等、Contrib Nephrol. 2021 Aug 3;199:1-9. PMID: 34344004
- KKE301h「薬物依存症治療を受ける喫煙妊婦への禁煙介入についての系統的レビュー：データは少ない」
- Melissa A Jackson等、Addiction. 2021 Aug 9. PMID: 34374145
- KKE301i「メンソール喫煙は禁煙成否に影響なし：米国人研究のメタ解析」
- Mimi M Kim等、Subst Abuse Treat Prev Policy. 2021 Aug 11;16(1):61. PMID: 34380503
- KKE301j「経頭蓋磁気刺激禁煙治療のかかりつけ医向けレビュー」
- Jonathan R Young等、Am J Med. 2021 Aug 15;S0002-9343(21)00473-3. PMID: 34407423
- KKE301k「アジアにおける禁煙集団療法に関する系統的レビュー」
- Rashidi Mohamed等、Tob Induc Dis. 2021 Aug 4;19:63. PMID: 34413718
- KKE301l「吸い殻はマイクロプラスチック環境汚染の原因になっている」
- Maocai Shen等、Sci Total Environ. 2021 Oct 15;791:148384. PMID: 34139503
- KKE301m「妊娠中の飲酒や喫煙は死産リスクを3割上げ両方では8割上がる：妊婦8千人の縦断調査」
- Hein Odendaal等、JAMA Netw Open. 2021 Aug 2;4(8):e2121726. PMID: 34424306
- KKE301n「喫煙歴はとくに45未満以下の若年成人でCovid-19悪化と関連する」
- Roengrudee Patanavanich等、BMC Public Health. 2021 Aug 16;21(1):1554. PMID: 34399729
- KKE301o「喫煙者するCovid-19患者の死亡率が高いのは男性のみ：レバノン743人の後方視的解析」
- Athar Khalil等、PLoS One. 2021 Aug 5;16(8):e0255692. PMID: 34351990
- KKE301p「Covid-19の死亡と女性の喫煙率は正の男性の喫煙率は負の関連がある：35か国の解析」
- Gabrielle Kelly等、Epidemiol Infect. 2021 Aug 2;149:e176. PMID: 34338184
- KKE301q「検査が陰性化しにくいCovid-19患者には肥満や喫煙者が多い」
- Xiao Dong等、Microbiol Spectr. 2021 Sep 3;9(1):e0032721. PMID: 34406805
- KKE301r「ドイツ医療者のCovid-19感染は喫煙者で少ない：7,554人の抗体調査」
- Paul R Wratil等、Infection. 2021 Aug 11;1-14. PMID: 34379308
- KKE301s「心血管疾患のリスクを減らすには減煙でなく禁煙が必要：韓国90万人の解析」
- Su-Min Jeong等、Eur Heart J. 2021 Aug 25;ehab578. PMID: 34431997
- KKE301t「長期喫煙やタバコ依存者では苦味・塩味の感覚が低下している：米国横断調査」
- Lauren Berube等、Physiol Behav. 2021 Oct 15;240:113554. PMID: 34375623

- KKE301u 「1日喫煙本数ではなく生涯喫煙量が乳癌発症と関連する：メンデルランダム化研究」
Hanla A Park等、Br J Cancer. 2021 Aug 2. PMID: 34341517
- KKE301v 「NRTを使用すると喫煙妊婦のニコチン摂取量は不変だが喫煙量は減った」
Bhavandeep Slaich等、Addiction. 2021 Aug 23. PMID: 34427009
- KKE301w 「家庭内に喫煙者が多いほど結核患者の子供は結核に感染する：ベトナムの調査」
Robert J Blount等、Am J Respir Crit Care Med. 2021 Aug 3. PMID: 343430259
- KKE301x 「喫煙誘発刺激への脳反応のうち扁桃体では喫煙欲求より感情価を反映する：fMRI研究」
Amelie Haug等、Addict Biol. 2021 Aug 7;e13083. PMID: 34363643
- KKE301y 「喫煙者では口腔・鼻腔・肺の細菌叢が変化している」
Stefan Pfeiffer等、Thorax. 2021 Aug 13;thoraxjnl-2020-216153. PMID: 34389656
- KKE301z 「電子タバコ使用者は気管支炎症状や息切れが多い：米国13-21歳の横断調査」
Benjamin W Chaffee等、Prev Med. 2021 Aug 19;153:106766. PMID: 34418439
- KKE301aa 「未成年喫煙者の喫煙状況を追跡するには暦時間のみでなく喫煙開始からの時間でも追うと新規喫煙者を解析しやすい」
Marie-Pierre Sylvestre等、Nicotine Tob Res. 2021 Aug 25;ntab170. PMID: 34432030
- KKE301ab 「タバコ葉を使わない経ロニコチンポーチの薬物動態と使用感についての無作為化臨床研究」
Jesse Rensch等、Psychopharmacology (Berl). 2021 Aug 25. PMID: 34432106
- KKE301ac 「 $\alpha 6 \beta 2$ ニコチン受容体特異的結合分子インドリジジン(-)-237Dの開発」
Francis A Acquah等、Int J Mol Sci. 2021 Jul 25;22(15):7934. PMID: 34360698
- KKE301ad 「バレニクリンは精巢捻転の虚血再灌流障害を軽減する（ネズミの実験）」
Christina Ho等、J Pediatr Urol. 2021 Jul 12;S1477-5131(21)00341-7. PMID: 34366251
- KKE301ae 「医師たちもニコチン自体が直接癌やうつ病の原因になると誤解している者が多い：米国調査」
Michelle T Bover Manderski等、Int J Environ Res Public Health. 2021 Jul 21;18(14):7713. PMID: 34300168
- KKE301af 「日本の保健師のための妊婦禁煙カウンセリング評価スケールの開発」
Meng Li等、Tob Induc Dis. 2021 Aug 2;19:62. PMID: 34393694
- KKE301ag 「パーキンソン病患者の喫煙率は低い喫煙歴の有無で症状に差はない：日本の単施設症例対象研究」
Shuichiro Neshige等、J Neurol Sci. 2021 Aug 15;427:117534. PMID: 34130061
- KKE301ah 「日本の加熱式タバコ使用率は職業で異なり小売業の男性で多い」
Enkhtuguldur Myagmar-Ochir等、BMJ Open. 2021 Aug 24;11(8):e049395. PMID: 34429314
- KKE301ai 「受動喫煙者や加熱式タバコ喫煙者の尿中曝露マーカー比較：日本」
Yuya Kawasaki等、J Clin Biochem Nutr. 2021 Jul;69(1):37-43. PMID: 34376912
- KKE301aj 「天然および合成エストロゲンはニコチン摂取を促進させる：卵巣摘出後のネズミでの実験」
Erin E Maher等、Neuropharmacology. 2021 Oct 15;198:108756. PMID: 34416269
- KKE301ak 「心臓自家移植で改善せずニコチンパッチと葉巻で改善した冠攣縮の一例」
Matthew V Tran等、JACC Case Rep. 2021 May 26;3(9):1177-11814. PMID: 34401754
- KKE301al 「加熱式タバコ煙の胚芽細胞への影響は紙巻タバコ煙より少ない（iPS細胞実験）：インペリアルブランド社」
Liam Simms等、Curr Res Toxicol. 2020 Nov 15;1:161-173. PMID: 34345845

【週刊タバコの正体】

Vol.50 第5話～第8話

2021年10月

和歌山工業高校 奥田恭久

■Vol. 50

(No. 679) 第5話 コロナ禍の喫煙所

ーコロナ禍で職場や公共施設の喫煙所が減って...

新型コロナの感染拡大とその予防対策のため、私たちの生活様式は少なからず変化しました。上図は、ある会社の商品紹介サイトに掲載されている、そんな変化の一例です。このサイトでは、コロナの影響で喫煙所が少なくなり待ち時間が増え、時間やスペースのロスが増えているうえ、密集して感染リスクも高くなっていると指摘し、そんな課題を解決するためのサービスを提案しています。

実際、都会のオフィスビルでは写真のように喫煙室に入るために行列ができています。コロナ禍においては、タバコを吸うために、こんなに労力が必要になっているのです。

(No. 680) 第6話 Withoutタバコ

ー「Withコロナ」時代は「Withoutタバコ」の生活が望まれる時代...

新型コロナウイルス（COVID-19）が人間社会に登場してから約1年半が経過しました。日本における今までの感染者は約170万人、死者は約1万8千人にのぼっています。この状況に対応するため厚生労働省では感染者の情報を把握管理する仕組み（HER-SYS）を整備して治療・療養の支援を行っています。

左の表は、そのシステムで収集された情報をもとに、感染すると重症化するとみられる要因別の死亡率をまとめたものです。重症化リスクの一つも持っていないで死亡する人は0.41%だったそうです。だから、たとえば喫煙習慣がある人の0.99%は、その2倍以上もあり死亡率は2倍高いと言えます。

(No. 681) 第7話 加熱式タバコも有害

ー加熱式タバコや電子タバコという文字を目にする機会が増えて...

タバコと言えば、ライターで火をつけて吸うものですが、数年前に燃やさずに吸える新型タバコが登場して以来、利用者は増加しました。新型タバコにはたばこの葉を使用する“加熱式タバコ”と使用しない“電子タバコ”があります。日本では葉事法で溶液にニコチンを入れる事が禁止されているので電子タバコにはニコチンが含まれていません。だから世間の喫煙者が使用しているのは、加熱式タバコがほとんどです。

(No. 682) 第8話 そんな事はない

ー喫煙率の低下に伴いタバコの販売数も減少して...

全国でタバコは年間どのくらい販売されているのでしょうか。左のグラフは年度ごとの販売量を表したグラフです。今から35年前の1996年には「3483」という数字が記されています。これはこの年に3483億本も売れたという事なのです。ちょっとイメージできないくらい膨大な数字ですが、仮に日本の人口約1億人全員がタバコを買ったとすると一人あたり3483本になる計算です。

しかし、時代が移りタバコの有害性が広く知られるようになるに連れ、どんどん販売量は減り昨年は35年前の1/3以下にまで減少しました...

volume 50 Serial number 679 第5話 週刊 タバコの正体

2020年喫煙所に起きている変化

- 1 以前は数多くあった喫煙所も、禁煙所建設や、タバコを吸うための喫煙時間や、待ち時間が長くなっていく状況...
- 2 数が減らされ、狭くなった喫煙所は、タバコを吸うための喫煙時間や、待ち時間が長くなっていく状況...
- 3 少ない喫煙所に客が集中して、密集状態...

その変化がもたらす、喫煙所の新たな課題

並ぶことによる時間のロス
喫煙所までの移動時間や、喫煙時間、待ち時間が長くなることで、待ち時間が長くなる。

並ぶ列が占有するスペース
狭い喫煙所に多くの人が並ぶことで、待ち時間が長くなる。

密集による感染リスク
狭い喫煙所に多くの人が並ぶことで、待ち時間が長くなる。

TERMOTOP「SMOKINGSITE」サイトから

新型コロナの感染拡大とその予防対策のため、私たちの生活様式は少なからず変化しました。上図は、ある会社の商品紹介サイトに掲載されている、そんな変化の一例です。このサイトでは、コロナの影響で喫煙所が少なくなり待ち時間が増え、時間やスペースのロスが増えているうえ、密集して感染リスクも高くなっていると指摘し、そんな課題を解決するためのサービスを提案しています。

実際、都会のオフィスビルでは写真のように喫煙室に入るために行列ができています。コロナ禍においては、タバコを吸うために、こんなに労力が必要になっているのです。

だから、やっぱりタバコは吸い始めない、そして吸っている人は禁煙する事が一番ですね。

産業デザイン科 奥田 恭久

Zero Tobacco Project in WAKO Since 2005

volume 50 Serial number 682 第8話 週刊 タバコの正体

紙巻たばこ販売実績(億本)

全国でタバコは年間どのくらい販売されているのでしょうか。左のグラフは年度ごとの販売量を表したグラフです。今から35年前の1996年には「3483」という数字が記されています。これはこの年に3483億本も売れたという事なのです。ちょっとイメージできないくらい膨大な数字ですが、仮に日本の人口約1億人全員がタバコを買ったとすると一人あたり3483本になる計算です。

しかし、時代が移りタバコの有害性が広く知られるようになるに連れ、どんどん販売量は減り昨年は35年前の1/3以下にまで減少しました。そして、それに連動するようにタバコの自動販売機の数も激減しています。左下のグラフにあるように、15年前には60万台以上も設置されていたが、現在では1/5の12万台にまで減少しました。

皆さんのようにタバコの有害性を知り、一生タバコを必要としない人は今後も増え続けるでしょう。タバコはもっと売れなくなるといいます。そうなれば、いずれタバコを販売するの必要なくなる時代を迎えられるかもしれません。

「そんな事はない」と思いますが、時代は変わるものですからね。

産業デザイン科 奥田 恭久

Zero Tobacco Project in WAKO Since 2005

たばこ自動販売機普及状況

普及台数(台)
605,200
500,000
400,000
300,000
200,000
100,000
0

自動販売機台数(台)
199,400
184,422
169,899
150,000
130,000
110,000
90,000
70,000
50,000
30,000
10,000
0

毎週火曜日発行

URL: https://www.jascs.jp/truth_of_tobacco/truth_of_tobacco_index.html

※週刊タバコの正体は日本禁煙科学会のHPでご覧下さい。
※一話ごとにpdfファイルで閲覧・ダウンロードが可能です。
※HPへのアクセスには右のQRコードが利用できます。



【報告】

全国禁煙アドバイザー育成講習会

(2021年10月) 第279回(Archive)

【第279回 全国禁煙アドバイザー育成講習会 倉敷・web開催／アーカイブ放映】

- ◆開催日：2021年10月23日（土）アーカイブ放映
- ◆主 催：日本禁煙科学会、禁煙マラソン
- ◆後 援：健康日本21推進全国連絡協議会

【主たるプログラム】

「胎児・赤ちゃんから始める禁煙活動」

前 沖縄県立中部病院・ハワイ大学卒

後医学臨床研修プログラムディレクター 安次嶺馨

「禁煙支援に必要な知識と最新情報」

日本禁煙科学会 高橋裕子

「事例から学ぶ妊産婦に対する禁煙支援のポイント」（※第272回講習会アーカイブ）

医療法人緑風会 三宅ハロー歯科 滝川雅之

日本禁煙科学会HP

URL: <https://www.jascs.jp/>

※日本禁煙科学会ホームページのアドレスです。

※スマホ等でのアクセスは、右のQRコードをご利用下さい。



ふえる笑顔 禁煙ロゴ

筋肉の疾患で体の不自由な浦上秀樹さん（埼玉県在住）が、口に筆を取って書いてくださった書画です。「けんこうなしゃかい ふえるえがお」という文字を使って『禁煙』をかたどっています。

※拡大画像は日本禁煙科学会ホームページでご覧頂けます。

※スマホ等でのアクセスは、右のQRコードをご利用下さい。

URL : https://www.jascs.jp/gif/egao_logo_l.jpg



編集委員会

編集委員長 中山健夫

編集委員 野田隆 東山明子 高橋裕子

日本禁煙科学会

学会誌 禁煙科学 第15巻（10）

2021年（令和3年）10月発行

URL : <https://www.jascs.jp/>

事務局：〒630-8113 奈良県奈良市法蓮町 948-4

めぐみクリニック（未成年者禁煙支援センター）内

E-mail : info@jascs.jp